

Xの罪責

1 現住建造物放火罪（行為①、②）

(1) 構成要件該当性

ア 現住建造物 ..... 15

- ・建造物の一部性
- ・建造物の一体性

イ 放火 ..... 15

- ・実行の着手

ウ 焼損 ..... 8

エ 故意 ..... 15

- ・行為①の時点での故意、因果関係の錯誤

(2) 責任阻却 ..... 15

- ・原因において自由な行為

3 殺人未遂罪（行為③）

(1) 構成要件該当性 ..... 7

ア 実行の着手

イ 結果の不発生

ウ 故意

(2) 責任阻却 ..... 8

- ・原因において自由な行為

4 過失傷害罪（行為④） ..... 15

(1) 過失

(2) 傷害

5 罪数 ..... 2

※ 責任モデルに立った場合の答案構成です。

← 客体の特定が必要です（pp.248-250）。

← 詳しく検討します（pp. 250-252）。

← 故意については、客観的要件との関係を意識した検討が必要です（p. 253）。

← 詳しく検討します（pp. 253-255）。ただし、見解によって大きく論じ方が変わります。

← 1(2)とは違った検討が必要になります（p. 255）。

← 注意義務の内容を砕いて気に特定します（p. 256）。